

令和7年度『第2回学校における働き方推進会議』議事録

○開催日時：令和8年1月29日（木）10時00分～11時30分

○場所：奈良県庁東棟 教育委員室

○出席：小谷会長、安田委員、辻委員、關口委員、和田委員、水谷委員、林田委員、岡田委員、室田委員

（欠席：北谷委員）

○協議事項 「学校における働き方改革推進プラン改定について」

資料に沿って説明

○主な意見

【奈良県町村教育長会】

働き方改革を進めていくが、働きがいを見失わないようにすることが大事。削減しながら教育の質を高め、子どもと向き合う時間を増やしていくことが重要だと考える。教科担任制については、大きな学校では可能だが、小さな学校では難しい部分もある。慢性的な人材不足を改善していかなければならない。現在各市町村で策定準備中の業務量管理・健康確保措置実施計画についても県の支援が必要である。

【奈良県国公立幼稚園・こども園長会】

県の推進プランがあることで、幼稚園・こども園の働き方改革についても後押しされ、見直す機会が持てた。働き方改革を進めていくには、現場の意識改革が重要。当たり前にならないといけないと思っていても、考えていく必要がある。主任や副園長、事務員が配置されていない園もある。業務を精選し、協力し合える環境をつくっていききたい。市町村作成のプランをまた共有していただきたい。

【奈良県小学校長会】

学校行事の精選はかなり進んでおり、これ以上にスリム化していくのは難しい。管理職の支援体制としての学校の解錠施錠業務や支援員の確保はありがたい。特に開錠施錠業務は管理職のなり手を確保していくためにも重要である。県からの指導助言として、ぜひ保護者や地域の方への理解をバックアップしていただきたい。

【中学校長会】

部活動の地域移行について、人材確保が難航している。部活動をやりたい先生もいるので、実現していくための整備が難しい。各市町村でも人材バンクがあるところもある。県の人材バンクの現状について聞きたい。

〔事務局〕現在、130名の登録がある。各市町村からの問い合わせに対して、紹介を行っている。各競技団体や大学への登録の働きかけも行っている。

【高等学校長会】

定数改善抜きに働き方改革は進まない。入学者選抜、奨学金、大会運営、留学等の高等学校特有の業務の負担が大きい。県立学校における施錠業務に大いに期待している。既に行っている事例から、外部者により決められた時間に学校を施錠することで、教員の退勤を促すなどのメリットが大きいと思われる。実現してもらえば、学校の働き方改革はかなり進む。

【特別支援学校長会】

プランには、特別支援学校の特異性も反映されているように思われる。特別支援学校では、意識は変わってきており時間外在校等時間も減ってきている。一方で、特定の分掌や事務室に負担がかかっている。

る。また、経験の浅い教員への専門性について、専門職との連携をもっと進める必要がある。特別休暇からの復職についての支援も期待する。